

D-7 乳幼児の安全教育に関する実態調査(第2報)
—幼児の遊び場に対する母親の認識—

中村学園大家政 ○山下 歌子
貝原 糸美

1. 現代社会で子どもものの遊び場は重大課題の一つであ

る。厚生省は昭和45年5月5日遊び場について全国の実態調査の結果を報告した。近年交通地獄の様相は益々悪化しそのため心身の未発達な幼児は環境に適応し難く不慮の事故死が急激に増加している。これは子どもの健全育成を阻害するので看過できない。演者は子どもの安全を願いそのため早急に対策をたてる必要があると考え、一連の実態調査を行なってきた。本報は子どもの遊び場についての調査結果を報告する。

2. 福岡市A住宅地区，福岡市B商店街地区，福岡県C農村地区の幼稚園，保育所の園児の母親計600名を対象に質問紙を用い実態調査を行なった。調査時期は1968年7月1日～14日，回収率73%であった。調査結果は χ^2 検定を用い有意性の有無を調べた。

3. ①自宅の近所に安全な遊び場があると答えたものは住宅地区で79%，商店街地区63%，農村地区53%の順であった。②自宅の近くにある遊び場としては，住宅地区では空地・原っぱ36%，商店街地区では遊園地39%，農村地区では運動場34%であった。③事故をおこした場所については危険でないように改修したものは全体で1/3であった。